

大麦管理特報

～ 消雪後追肥・3号 ～

令和7年3月4日

黒東地域農業技術者協議

大麦は、播種後の高温や年末の多雨のため、葉色が薄い状態で積雪下で生育しています。消雪後の葉色が薄い場合は、すみやかに晴れ間を見て遅れないように追肥を行って下さい。

また、排水溝の手直しや排水口の掘下げなどをしっかりと行い、ほ場内の停滞水の排出に努めましょう。

1 消雪後の追肥

葉色が薄い場合は、生育の回復と穂数の確保のため、遅れずに実施する。

肥効調節型基肥栽培ほ場は、原則追肥は必要ありませんが、極端に葉色が淡くなった場合は消雪後に追肥を施用する必要があります。

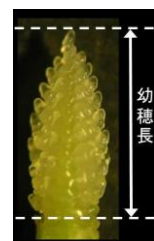
※ 施用量や施用時期は、指導員にご相談ください。

茎数が多いほ場（1,200 本/㎡以上）では、施用量を減らしましょう。

追肥時期：消雪後遅れずに

（幼穂長3～4mm）

施用量目安：硫安 10 kg/10a



幼穂長
3～4mm

茎数が多いほ場（1,200 本/㎡以上）では
硫安5～7kg/10aに減らす

2 排水対策の徹底

溝に停滞水がある場合は、溝を手直しするとともに、水吐尻と確実に連結し、排水口を掘り下げ、排水を行う。



停滞水があると、根張りが悪く、肥料の効果も期待できません！